

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K13362

研究課題名(和文)心理職養成課程の学生を対象にした専門職連携教育プログラムの開発

研究課題名(英文)Development of an interprofessional education program for psychology students

研究代表者

川島 義高(Kawashima, Yoshitaka)

明治大学・文学部・専任講師

研究者番号：20647416

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文):専門職連携実践の重視に伴い、専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE)の重要性が指摘されているが、心理職養成課程では、IPEを実践している大学は少なく、その有効性は不明である。そこで本研究では、心理職養成課程にある学生が参加可能な「1日完結型IPEプログラム」を対面型とオンライン型の2形態の実施方法で開発し、1群のオープン試験により実施可能性、安全性、有効性を検討した。その結果、2形態ともに、本IPEプログラムは、参加した学生の専門職連携への態度により好ましい変化を促すことが示された。今後、本IPEプログラムを導入・普及するための方法を探索する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、心理職養成課程にある学生が参加可能な「1日完結型IPEプログラム」が開発された。そして、本プログラムは、対面とオンラインの両方の実施方法において、受講した学生の専門職連携に対する態度をより好ましい方向へと変化させることが示された。本研究の成果は、新型コロナウイルス感染症感染拡大下およびその収束後の状況にも実施可能な、ニューノーマルに対応した新たな専門職連携の教育方法を検討するための一助となると考えられる。

研究成果の概要(英文):The importance of Interprofessional Education (IPE) has been pointed out in order to effectively practice professional collaboration. However, there are few IPEs for psychology students, and their effectiveness is unknown. In this study, we have developed a "one-day complete IPE program" that psychology students can participate in, using two types of implementation methods: face-to-face and online. Then, the feasibility, safety, and efficacy of the program were examined by a single-arm open trial. The results showed that in both forms, this IPE program encourages positive change in the attitudes of participating students toward the professional collaboration. In the future, it is necessary to explore how to disseminate and implement this IPE program.

研究分野：臨床心理学

キーワード：パイロット試験 プログラム開発 専門職連携教育 学生 心理職

## 1. 研究開始当初の背景

医療現場では、様々な医療専門職が従事している。心理職もその重要な構成員である。しかし、患者中心の医療を実現するためには、各医療専門職がそれぞれの職能について最善を尽くすだけでは不十分であり、専門職連携実践 (Interprofessional Work : IPW) に基づいたチーム医療によるサービス提供が重要となる。近年では、IPW に基づいたチーム医療は、良質な医療サービスの提供のみならず、患者安全、医療経済的利点、医療専門職の負担緩和などの観点からも必要不可欠なものとして認識されている。一方で、心理職は、他の医療専門職と協働する機会が少なく (林, 2011)、他職種との協働に対して不慣れであるという指摘もある (富岡ら, 2013)。

また、IPW の重視に伴い、最近では、専門職連携教育 (Interprofessional Education : IPE) の重要性が国内外において指摘されるようになった。IPE とは、チーム医療や IPW に必要とされる能力を培うための教育であり、WHO 発刊の医療専門職の教育とトレーニングに関するガイドラインにおいても、卒前より早期の段階での IPE 導入が推奨されている (WHO, 2013)。わが国においても近年、医療系大学において卒前教育に IPE を導入する機関が増えている。加えて、医学・看護学の領域では、専門職教育のより早期の段階で IPE を実践し、その有効性を検討した研究がいくつかある。一方、わが国における心理職の教育課程では、卒前から IPE を実践している大学は少ない (川島ら, 2017)。心理専門職の国家資格化が実現した現状において、心理職およびその養成課程にある学生への IPE 導入は取り組むべき課題のひとつと考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3つとした。まず、医療系学部・学科が設置されていない大学の心理職養成課程に所属する学生が参加可能な IPE プログラムを開発すること、次に、パイロット試験として1群のオープン試験を行い、心理職養成課程にある学生に対する IPE プログラムの実施可能性と安全性を確認すること、そして最終的に、「IPE 群」と「対照群」の2群のランダム化比較試験を行い、IPE プログラムの有効性を検証することとした。しかし、ランダム化比較試験を実施する予定であった2020年に新型コロナウイルス感染症感染拡大が生じ、IPE プログラムを対面で実施することが困難となった。そこで、本研究では、当初の目的を変更し、ランダム化比較試験による対面型 IPE プログラムの有効性の検証ではなく、オンラインによるリモート IPE プログラムの実施可能性、安全性、有効性を検討することを新たな目的とし、ニューノーマルに対応した新たな教育方法を探索する研究と位置付けた。

## 3. 研究の方法

### (1) 心理職養成課程の学生を含めた IPE プログラムの開発

わが国で IPE および関連する教育プログラムを先駆的に進めている施設を訪問し、IPE プログラムの内容、運営、評価方法に関して意見交換を行い、プログラム開発に資する情報を収集した。また、既存の IPE プログラムのコンテンツについて、公開されている資料 (論文、報告書、website など) を基にして情報を収集した。加えて、医療領域で心理専門職に求められる知識および技能に関する前方視的観察研究を対象にした系統的レビューを行い、先行研究の知見を整理した。そして収集した情報を基に、大学にて医学あるいは心理学領域の学生教育に従事している研究者によるエキスパートコンセンサスにより IPE プログラムを作成した。

### (2) 「1日完結型 IPE プログラム」の実施可能性、安全性、有効性

本研究で開発した「1日完結型 IPE プログラム」の実施可能性、安全性、有効性について、心理尺度を用いて検討した。本パイロット試験の研究デザインは、1群のオープン試験とした。IPE プログラムの参加者の適格基準は、心理学専攻、医学科、看護学科、薬学科、社会福祉学科のいずれかに在籍する学生、将来、医療現場で働くことを希望している学生、本 IPE プログラムを全て受講可能な学生、とした。参加者の募集は、縁故法により実施した。そして、IPE プログラムの安全性と有効性の評価は、受講前後および3か月後に日本語版 Readiness for Interprofessional Learning Scale : RIPLS (Tamura et al., 2012) などの5つの心理尺度を実施し、各尺度の受講前後および3か月後の変化量を算出して検討した。Reeves et al. (2013) の系統的レビューでは、IPE の効果を検討した先行研究において、アウトカムの異質性が高いことが指摘されている。そのため、本研究では、先行研究の限界点を克服できるよう、アウトカムは IPE 研究での使用頻度が高く且つ信頼性および妥当性が担保された RIPLS などの心理尺度を使用した。

### (3) 「1日完結型オンライン IPE プログラム」の実施可能性、安全性、有効性

本研究で開発した「1日完結型オンライン IPE プログラム」の実施可能性、安全性、有効性について、「1日完結型 IPE プログラム」のパイロット試験と同様の心理尺度を用いて検討した。

また、講師・ファシリテーターおよび IPE プログラムの参加者の適格基準も「1 日完結型 IPE プログラム」と同様とした。なお、除外基準として「1 日完結型 IPE プログラム」に参加した者とし、「1 日完結型オンライン IPE プログラム」は新規の学生に限定した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 心理職養成課程の学生を含めた IPE プログラムの開発

IPE および関連する教育プログラムを先駆的に進めている国内の施設を訪問し、IPE プログラムの内容、運営、評価方法に関して意見交換を行いプログラム開発に資する情報を収集した。さらに、IPE に関する国内外の先行研究や公開されている資料を収集し、国や機関ごとの専門職連携コンピテンシーの概念の整理、先行研究の研究デザインやアウトカム評価方法などに関する限界点の整理を進めた。加えて、系統的レビューの手法を用いて、医療領域で心理職が他職種と協働する際に必要とされる知識やスキルを探索した先行研究を抽出し、心理職に求められるエッセンスを整理した。その後、収集した情報を基に本研究で開発する IPE プログラムは、医療専門職の養成課程に在籍する学生で構成するプログラムとすること、既存の IPE プログラムの短縮化を試みることにした。そして、大学にて医学あるいは心理学領域の学生教育に従事している研究者によるエキスパートコンセンサスにより医療専門職を志す学生で構成する「1 日完結型 IPE プログラム」を作成した。本 IPE プログラムは、専門職連携実践に関する講義と多専攻合同による模擬症例検討で構成した。なお、模擬症例検討では、日本臨床救急医学会が作成した精神疾患を抱えた救急医療受診患者(模擬症例)の動画教材を使用した。動画教材使用にあたっては、東海大学と「救急医療における精神症状評価と初期診療(Psychiatric Evaluation in Emergency Care: PEEC)コース」を運営する同学会の「自殺企図者のケアに関する検討委員会」の承認を得て行った。また、本 IPE プログラムの講師・ファシリテーターは、専門職連携実践の経験を有する心理職(臨床心理士・公認心理師)3名と医師2名とした。

さらに IPE プログラムの参加者(心理学専攻の学生、医学生、看護学生、薬学部生など)の募集をスムーズに行えるように、医学部などで学生教育に従事している研究者に本研究の趣旨を伝えて協力体制を構築した。

##### (2) 「1 日完結型 IPE プログラム」の実施可能性、安全性、有効性

本研究で開発した「1 日完結型 IPE プログラム」に6大学5専攻(心理学専攻、医学科、看護学科、薬学科、社会福祉学科)から計29名が参加した。平均年齢は23.38歳(SD=1.64)、学年幅は学部3年から6年生(あるいは博士前期課程2年生)であった。受講前後の各尺度得点の変化を検討した結果、受講者は IPE プログラム受講によって、専門職連携に対する態度がより好ましい方向へと変化することが確認された。また、心理学専攻だけでサブグループ解析を行った結果、同様の傾向が確認された。加えて、本パイロット試験では、多専攻合同による模擬症例検討時の課題設定の一部見直し、講師・ファシリテーターマニュアルの推敲などの改善点も見出された。

さらに、IPE プログラム受講後3か月時点で、受講前後と同様の心理尺度を用いたフォローアップ調査を実施し、IPE プログラムの安全性および有効性の持続性を検討した。受講前(Baseline)と3か月時点の各尺度得点の変化を検討した結果、3か月時点においても、より好ましい態度が維持されていることが確認された。また、心理学専攻に在籍する受講者のデータのみを用いたサブグループ解析を行った結果、同様の傾向が確認された。

以上の結果から、本研究で開発した「1 日完結型 IPE プログラム」は、専門職連携への態度により好ましい変化を促すことが示された。今後は、本パイロット試験の結果に基づき、ランダム化比較試験を行い、「1 日完結型 IPE プログラム」の有効性を検証する必要がある。

##### (3) 「1 日完結型オンライン IPE プログラム」の実施可能性、安全性、有効性

まず、対面による IPE プログラムをオンラインによるリモート IPE プログラムへ転換することを試みた。具体的には、プログラムの進行方法、各種教材、講師・ファシリテーターマニュアルなどをオンライン用に改変し、「1 日完結型オンライン IPE プログラム」を開発した。そして、その安全性と有効性を対面による「1 日完結型 IPE プログラム」と同様の方法で検討した。

結果として、本 IPE プログラムに9大学4専攻(心理学専攻、医学科、看護学科、社会福祉学科)から計18名が参加した。受講前後および3か月後に、RIPLSなどの5つの心理尺度を実施し、各評価時点の変化量を算出した結果、「1 日完結型オンライン IPE プログラム」も対面と同様に、専門職連携に対する態度がより好ましい方向へと変化することが確認された。また、心理学専攻に在籍する受講者のデータのみを用いたサブグループ解析を行った結果、同様の傾向が確認された。さらに、オンラインと対面による、各心理尺度の受講前後および3か月後の変化量の差を検討した結果、実施形態による統計上の差は示されなかった。ただし、本研究は対象者数が少ないため、今後のさらなる研究が必要と考えられた。

以上の結果から、本研究で開発した「1 日完結型オンライン IPE プログラム」は、対面によるプログラムと同様の有効性がある可能性が示された。この結果は、ニューノーマルに対応した新たな専門職連携の教育方法を検討するための一助になると考えられた。今後は、ランダム化比較試験などのより強固な研究デザインにより「1 日完結型オンライン IPE プログラム」の有効性を

検証する必要がある。そして、心理職養成課程の学生に対して本研究で開発された IPE プログラムを導入・普及するための方法を探索する必要がある。

<引用文献>

林奈津子. チーム医療で対応するアレルギー疾患 チーム医療としてのアレルギー教室. 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌, 9(1): 59-62, 2011.

川島義高、山田光彦. チーム医療のための専門職連携教育(Interprofessional Education: IPE). 精神療法 43(6): 809-816, 2017.

Reeves S, Perrier L, Goldman J, Freeth D, Zwarenstein M. Interprofessional education: effects on professional practice and healthcare outcomes (update). Cochrane Database Syst Rev 3: CD002213, 2013.

Tamura Y, Seki K, Usami M, Taku S, Bontje P, Ando H, Taru C, Ishikawa Y. Cultural adaptation and validating a Japanese version of the readiness for interprofessional learning scale (RIPLS). J Interprof Care 26: 56-63, 2012.

富岡直、満田大、中嶋義文. 多職種協働のために精神科リエゾンチームの心理職に求められること チームの内と外、二側面による検討. 総合病院精神医学 25(1): 33-40, 2013.

World Health Organization. Transforming and Scaling Up Health Professionals' Education and Training. 2013.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 川島義高, 大槻露華, 安東友子, 山田光彦	4. 巻 第19巻2号
2. 論文標題 医療領域での他職種協働：心理職に必要とされるスキルとその評価に関する系統的レビュー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 221-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 川島義高、日野耕介、井上佳祐、高井美智子、川本静香、大高靖史、小高真美、米本直裕、山田光彦
2. 発表標題 One day専門職連携教育プログラムの効果研究：パイロット試験
3. 学会等名 第33回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川島義高, 米本直裕, 山田光彦
2. 発表標題 医療機関に勤務する心理職の他職種協働スキルに関する実態調査
3. 学会等名 第15回日本うつ病学会総会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 川島義高（金沢吉展編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 14
3. 書名 公認心理師ベーシック講座 健康・医療心理学（第8章チーム医療と多職種連携）	

1. 著者名 川島義高 (松見淳子・原田隆之編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 印刷中
3. 書名 現代の臨床心理学 第1巻 (第IV部第4章専門職連携)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山田 光彦  (Yamada Mitsuhiko)		
研究協力者	米本 直裕  (Yonemoto Naohiro)		
研究協力者	日野 耕介  (Hino Kousuke)		
研究協力者	井上 佳祐  (Inoue Keisuke)		
研究協力者	高井 美智子  (Takai Michiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	川本 静香  (Kawamoto Shizuka)		
研究協力者	小高 真美  (Kodaka Manami)		
研究協力者	大高 靖史  (Otaka Yasushi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関